

国語 第5学年 物語のおもしろさを解説しよう 検討会の想定問答

指摘 1：この単元で身に付けることは何か。

返し：案内の言葉を人物がどう受け止め、読み手はどう感じるかを比べ、物語のおもしろさを表現から考える。繰り返しや前後の対応をたどり、結末を知って読み返すと受け取り方がどう変わるかを説明する。C(1)エの学習として、物語のおもしろさの解説。着目した表現、人物と読み手の受け取り方、前後の対応、効果を記す。

指摘 2：何をもって学習できたと判断するか。

返し：おおむね満足できる状況は、人物の受け止め方と、読む人が受ける印象を比べ、表現の工夫から物語の全体像やおもしろさを想像しているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。C(1)エの姿を本時の発言と記録に照らす。

指摘 3：活動が楽しいだけで終わらないか。

返し：物語のおもしろさの解説を残す。着目した表現、人物と読み手の受け取り方、前後の対応、効果を記す。活動後に、どの言葉を根拠にしたかを確認することで、C(1)エに関わる学習の中身を確認する。

指摘 4：難しさのある児童にはどんな支援をするか。

返し：結末の意外さだけを説明する。人物への非難だけになり表現に戻らない。これについて、人物の受け止め方と読み手の受け止め方を並べる。どの語句や前の場面を手がかりにしたかを示す。表現の引用は教師が原本から確認し、配付物に本文を転載しない。〔知識及び技能〕(1)クとC(1)エを切り離さず扱う。

指摘 5：考えが違ったときはどう扱うか。

返し：教師の結論を選ばせず、「同じ案内の言葉を、登場人物、それから読む人はどう受け止めていますか。読み返すと意味が変わるのは、どんな表現のためですか」に戻す。言葉や本文で確かめられる点と、個人の感じ方を分け、C(1)エに関わる根拠を話し合う。

指摘 6：本時の評価で態度まで決められるか。

返し：本時の参加の様子だけでは決めない。学年の目標(3)を受け、単元を通した記録と見直しの理由を合わせて判断する。発言の多さや従順さを態度の評価にしない。

指摘 7：端末がない学級でもできるか。

返し：物語のおもしろさの解説は紙に記録できる。着目した表現、人物と読み手の受け取り方、前後の対応、効果を記す。端末があれば書き直し前後を保存して比較する。道具の操作をC(1)エの評価の代わりにしない。

指摘 8：時間が足りないとき、どこを残すか。

返し：総時数の出典は東京書籍の年間指導計画である。活動量を調整する場合も、本時の問いを自分で考える場面と、根拠を比べて記録を見直す場面は残す。C(1)エで目指す姿が確認できるように配当を組み直す。

指摘 9：作者の教訓を先に教えるべきか。

返し：C(1)エでは人物像や全体像、表現の効果を扱う。解説の結論を先に与えず、人物と読み手の受け取り方の違いを本文の表現から考える。

指摘 10：振り返りを感想だけにしないためには。

返し：「同じ案内の言葉を、登場人物、それから読む人はどう受け止めていますか。読み返すと意味が変わるのは、どんな表現のためですか」への答えを学習前後で読み比べる。変えた点に加え、理由を確かめて残した点も書く。C(1)エに関わる言葉の捉え方・使い方を記録する。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

